

# 昨年6月オスプレイ墜落



昨年6月8日、米カリフォルニア州の訓練区域で墜落したMV-22オスプレイの残骸=米海兵隊事故報告書から

# クラッシュの不具合が原因

## 陸自は正面飛行見合わせ

米海兵隊は21日、昨年6月8日（日本時間7日）に米西部カリフォルニア州で発生したMV-22オスプレイの墜落事故についての事故報告書を公表。ローター（回転翼）のギアボックスとエンジンをつなぐ、動力を伝達するクラッチの不具合（ハード・クラッチ・エンジニアメント＝HCE）が原因だと結論付けました。事故では乗組員5人全員が死亡しました。

↓解説面

## 米海兵隊が事故報告書

これを受けて、防衛省は7・スプレイの飛行を正面見合月24日、陸上自衛隊も22才 わせると表明。同機の構造明になりました。

事故報告書は、操縦ハブ

や整備不良、悪天候などの要因は見当たらないとした

上で、両方のエンジンにHCEが発生し、片方のエンジンに不具合が発生したと指摘。オスプレイは左右の回転翼を動かす2基のエンジンを有しており、一方が停止しても片方から動力が伝達される仕組みになっています。しかし、今回の事故では、このシステムも機能不全に陥り、右側の回転翼が推力を喪失。機体が制御不能に陥りました。

今後の対策としては、部品の交換とHCEの発生原因の究明などをあげまし

た。総省は今年2月、オスプレイ全機の部品交換を指示しました。

22オスプレイのHCEが多いとして、横田基地（東京都）に配備され、この機を含め、全5機を一時、地上待機させました。一方、防衛省は何の対策も取っていませんでした。今回の米側報告書を踏まえ、安全確認を行うため飛行を見合わせるとしています。陸自オスプレイは本通り普天間基地（沖縄県）に暫定的配備機を含むMV-22の飛行継続を強行しましたが、事態を重く見た米国防省が、那覇への移転を強行しています。

## 配備を撤回すべきだ

「佐賀空港への自衛隊オスプレイ等配備反対地域住民の会」の古賀初代会長の話、オスプレイの危険性が実証されたわけですから、自粛に戻すべきです。全国で配備を撤回すべきです。佐賀県では、オスプレイを配備するため駐屯地の建設が進められています。私たちが最初から「平和で静かな佐賀の空気、危険なオスプレイはいらない」と反対してきました。

佐賀空港の近くは、なり難い一大産地である佐賀半島の交換とHCEの発生原因の究明などをあげまし

7/25 4.22

**解説** オスプレイを

めぐっては、重大事故が多発し、「構造的欠陥機」との指摘が相次

いできましたが、日本政府は「これまで、重大事故が発生しても、一人のミス」だと繰り返し、機体の欠陥を否定してきました。今回、公表されたMV-22墜落事故の報告書で、オスプレイ特有の現象「ハード・クラッチ・エンジージメント」(HCE)が原因だと結論付けたことは、構造的欠陥を事実上認めています。

HCEとは、どのような現象なのか。事故報告書によれば、プロペラローター(回転翼)とエンジンをつな

としています。こうした現象は2010年ごろから認識されていますが、昨年8月、米空軍のCV-22がノルウ

エーでHCEにより飛行不能になってしまったこと

で、米側も対策を余儀なくされました。今回のMV-22の事故が故障しても、もう一方のエンジンのみで両翼のローターを回転させる「インターコネクト・ドライブシステム」(IDS)が損傷し、片方の翼は推力を失ったのです。防衛省の説明は破綻したといえます。

「クラッチが何らかの原因で滑り、動力が伝わらない現象です。クラッチを再接続した際に、駆動システムや回転軸などを損傷させる

がエンジンの不具合を引き起こし、2基のエンジンのうち1基しか機能しなかったことが空軍のCV-22がノルウエーでHCEにより飛行不能になってしまったこと

で、米側も対策を余儀なくされました。今回のMV-22の事故が故障しても、もう一方のエンジンのみで両翼のローターを回転さ

## オスプレイは「構造的欠陥機」 「安全神話」は破綻

いうことです。  
オスプレイ配備あります。(竹下岳)